

数列の和を積分で考える

かたおか ひろのぶ
片岡 宏信

§1 はじめに

これまでにも $\sum k^l$ の求め方についての様々な考察がなされて来たが、私は積分を使うことにより、数列の和の公式を導くことを考えた。

§2 $\sum k^l$ の和

n を自然数として

$$S_n = \int_0^n x \, dx, \quad a_n = \int_{n-1}^n x \, dx \quad (1)$$

とすると

$$S_n = \frac{1}{2}n^2, \quad a_n = \frac{1}{2}(2n-1)$$

となる。ここで、

$$S_n = \sum_{k=1}^n a_k$$

であるから、

$$\frac{1}{2}n^2 = \sum_{k=1}^n \frac{1}{2}(2k-1)$$

となる。これより、

$$\sum_{k=1}^n k = \frac{1}{2}n(n+1) \quad (2)$$

を求める事ができる。このような方法で、より一般的な公式を求める。 l を自然数として

$$S_n = \int_0^n x^l \, dx, \quad a_n = \int_{n-1}^n x^l \, dx \quad (3)$$

とすると

$$S_n = \frac{1}{l+1}n^{l+1},$$

$$a_n = \frac{1}{l+1}n^{l+1} - \frac{1}{l+1}(n-1)^{l+1}$$

$$= \frac{1}{l+1} \sum_{r=0}^l {}^{l+1}C_r n^r (-1)^{l-r}$$

となる。ここで、 $S_n = \sum_{k=1}^n a_k$ より、

$$\frac{1}{l+1}n^{l+1} = \sum_{k=1}^n \frac{1}{l+1} \sum_{r=0}^l {}^{l+1}C_r k^r (-1)^{l-r}$$

となる。これより、

$$\sum_{r=0}^l (-1)^{l-r} {}^{l+1}C_r \sum_{k=1}^n k^r = n^{l+1}$$

ここで $l=0, 1, 2, 3$ のときそれぞれ

$$\sum_{k=1}^n 1 = n,$$

$$\sum_{k=1}^n (2k-1) = n^2,$$

$$\sum_{k=1}^n (3k^2-3k+1) = n^3,$$

$$\sum_{k=1}^n (4k^3-6k^2+4k-1) = n^4 \quad (4)$$

となる。ここで、(4)を解きなおすと、

$$\sum_{k=1}^n k = \frac{1}{2}n(n+1),$$

$$\sum_{k=1}^n k^2 = \frac{1}{6}n(n+1)(2n+1),$$

$$\sum_{k=1}^n k^3 = \left\{ \frac{1}{2}n(n+1) \right\}^2 \quad (5)$$

が計算できる。さらに $l=4, 5$ の場合も考えると $\sum k^4, \sum k^5$ 等も順次求めていく。

§3 $\sum k^{-l}$ の和

この方法を使って、さらにいろいろな式の和を考えたい。

$$S_n = \int_1^n \frac{1}{x} \, dx = \log n,$$

$$a_n = \int_{n-1}^n \frac{1}{x} \, dx = \log \frac{n}{n-1}$$

であるから、 $\sum_{k=2}^n \log \frac{k}{k-1} = \log n$ よって

$$\sum_{k=1}^n \log \frac{k+1}{k} = \log(n+1)$$

がでてくる。分数関数である事を考慮して S_n の積分の範囲を 1 から n にした。さらに、

$$S_n = \int_1^n \frac{1}{x^2} \, dx = -\frac{1}{n} + 1,$$

$$a_n = \int_{n-1}^n \frac{1}{x^2} \, dx = \frac{1}{n(n-1)}$$

より、 $n \geq 2$ で $\sum_{k=2}^n \frac{1}{k(k-1)} = 1 - \frac{1}{n}$

よって $\sum_{k=1}^n \frac{1}{k(k+1)} = 1 - \frac{1}{n+1}$ (6)

が出てくる。さらに、 $l \neq 1$ のとき

$$S_n = \int_1^n x^{-l} dx = \frac{1}{-l+1} \left\{ \frac{1}{n^{l-1}} - 1 \right\},$$

$$a_n = \int_{n-1}^n x^{-l} dx = \frac{1}{-l+1} \left\{ \frac{1}{n^{l-1}} - \frac{1}{(n-1)^{l-1}} \right\}$$

より、 $\frac{1}{n^{l-1}} - 1 = \sum_{k=2}^n \left\{ \frac{1}{k^{l-1}} - \frac{1}{(k-1)^{l-1}} \right\}$

したがって、

$$\frac{1}{(n+1)^{l-1}} - 1 = \sum_{k=1}^n \left\{ \frac{1}{(k+1)^{l-1}} - \frac{1}{k^{l-1}} \right\} \quad (7)$$

§4 $\sum k^l r^k$ の和

$r \neq 1$ のとき

$$S_n = \int_0^n r^x dx = \frac{1}{\log r} (r^n - 1),$$

$$a_n = \int_{n-1}^n r^x dx = \frac{r-1}{\log r} r^{n-1}$$

とすると、

$$\frac{1}{\log r} (r^n - 1) = \sum_{k=1}^n \frac{r-1}{\log r} r^{k-1}$$

であり、これより等比数列の和の公式

$$\sum_{k=1}^n r^{k-1} = \frac{r^n - 1}{r - 1} \quad (8)$$

が出てくる。さらに、

$$S_n = \int_0^n x r^{x-1} dx = \frac{1}{r \log r} \left(n r^n - \frac{r^n}{\log r} + \frac{1}{\log r} \right),$$

$$a_n = \int_{n-1}^n x r^{x-1} dx = \frac{1}{r \log r} \left\{ n r^n - (n-1) r^{n-1} - \frac{r^n}{\log r} + \frac{r^{n-1}}{\log r} \right\}$$

より

$$n r^n - \frac{r^n}{\log r} + \frac{1}{\log r} = (r-1) \sum_{k=1}^n k r^{k-1} + \left(1 - \frac{r-1}{\log r} \right) \sum_{k=1}^n r^{k-1}$$

したがって、

$$\sum_{k=1}^n k r^{k-1} = \frac{n r^{n+1} - (n+1) r^n + 1}{(r-1)^2} \quad (9)$$

を導ける。これは、等比数列と等差数列の積の和の公式である。

さらに一般的にすると

$$S_n = \int_0^n x^l r^{x-1} dx = \left[\frac{1}{\log r} x^l r^{x-1} \right]_0^n - \int_0^n \frac{l}{\log r} x^{l-1} r^{x-1} dx,$$

$$a_n = \int_{n-1}^n x^l r^{x-1} dx$$

$$= \left[\frac{1}{\log r} x^l r^{x-1} \right]_{n-1}^n - \int_{n-1}^n \frac{l}{\log r} x^{l-1} r^{x-1} dx$$

より

$$\left[x^l r^x \right]_0^n = \sum_{k=1}^n \left[x^l r^x \right]_{k-1}^k$$

これより $l=0$ で、 $r^n - 1 = (r-1) \sum_{k=1}^n r^{k-1}$

$$l \neq 0 \text{ で、} r^n n^l = \sum_{k=1}^n \left[x^l r^x \right]_{k-1}^k$$

これを解いて、 $l=0$ で、

$$\sum_{k=1}^n r^{k-1} = \frac{r^n - 1}{r - 1}$$

これは(8)である。 $l \neq 0$ で、

$$\sum_{k=1}^n k^l r^{k-1} = \frac{1}{r-1} \left\{ r^n n^l + \sum_{\rho=0}^{l-1} l C_\rho (-1)^{l-\rho} \left(\sum_{k=1}^n k^\rho r^{k-1} \right) \right\}$$

この式を使って $l=1$ より順次計算していける。

$l=1$ の場合は(9)である。 $l=2$ のときは、

$$\sum_{k=1}^n k^2 r^{k-1} = \frac{1}{r-1} \left(r^n n^2 + 2 \sum_{k=1}^n r^{k-1} - 2 \sum_{k=1}^n k r^{k-1} \right)$$

$$= \frac{r}{(r-1)^3} \left\{ r^{n+1} n^2 + r^n (-2n^2 - 2n + 2) + r^{n-1} (n^2 + 2n) - 2 \right\} \quad (10)$$

となる。

〔参考文献〕

- 1) 日本数学教育学会誌 第74巻・第7号 pp.18~28
河野芳文(1992)「 $\sum_{k=1}^n$ の公式の簡単な求め方について」
- 2) 日本数学教育学会誌 第72巻・第3号 pp.15~19
村上-三(1990)「 $\sum k$, $\sum k^2$ のもう一つ的一般化」
- 3) 日本数学教育学会誌 第72巻・第5号 pp.58~65
内海庄三(1990)「自然数の累乗の和 $\sum k^e$ の求め方について」
- 4) 数研通信 No.42, pp.20~21 村上秋雄
「 $1^2 + 2^2 + 3^2 + \dots + n^2 = \frac{n(n+1)(2n+1)}{6}$ の図形的証明」
- 5) 数研通信 No.29, pp.5~7 加藤政仁
「自然数の平方の和 $S_n = \sum_{k=1}^n k^2$ について」
- 6) 数研通信 No.27, pp.24~25 坂本茂
「自然数の中和」
- 7) 数研通信 No.25, pp.13~16 渡邊了梧
「自然数の累乗の和を定積分で表示する一考察」

(兵庫県立姫路商業高等学校)